



# あずっ子

こどもも おびなも 元気いっぱい 東町小!

入間市立東町小学校学校だより

2月1日発行

発行者 校長 野口正孝

在籍児童数474名(2/1現在)

## 失敗は成長の糧

3学期が始まり、1か月がたちました。それぞれの学級では毎日学習や運動に元気に取り組んでいます。6年生は無事社会科見学も終わり、大きな行事は卒業式だけとなりました。残された小学校生活を1日1日大切にしてほしいと思います。

さて、先日読んだ本の中に面白いことが書いてあったのでご紹介します。

「あのね、失恋しやしないか、失恋しやしないかと思っていると、失恋するんです。だから、面白いですよ。思う通りになるんですからね。だから、人生、いいように考えることが大事ですね。それがもうコツですね、人生の。……運が悪いとこぼす人は、私は嫌いです。自分が運をこしらえるんだものね。自分が悪いから、運が悪いの。前向きでいつも、自分は運がいい、自分は運がいいと思うんですよ。そう思うことです。」

これは、大正から昭和、平成にかけて活躍された作家の宇野千代さんの言葉です。宇野さんは恋多き女性として知られています。人生の中で幾度も結婚と離婚を繰り返しました。そうした中でたくさん本を出しており、平成2年には文化功労者となっています。その宇野さんが恋愛を例に例えて、運は自分の心が引き寄せているとおっしゃっています。実はこうした話はたくさんあります。元京セラ会長の稲森和夫さんや、花巻東高校(大谷翔平選手の母校)野球部監督の佐々木洋さんも同じことを言っています。失敗するんじゃないかと考えると、失敗する。人生は思っているようになる。だから、人生は前向きに生きることが大切だと口をそろえて言います。では、前向きに生きるとはどういうことなのでしょう。

私は前向きに生きることとは、失敗を恐れずにチャレンジすることではないかと思っています。日本の考え方には「失敗は許されない」というものがあります。しかし、これでは失敗ばかり気にして、前に進めません。まして、そのことばかりが気になって、さらに失敗をしてしまうスパイラルに陥ってしまうかもしれません。ですから、失敗を恐れずに何事にもチャレンジすることが大切だと思っています。

入間市教育長の中田一平先生は「学校では心理的安全性が大切だ」と常々おっしゃっています。心理的安全性とは「誰もが安心し、失敗ができる環境」のことです。失敗が許される学級であれば、様々なことにどんどんチャレンジすることができます。例えば、手を挙げて発表したことが間違えであっても、次は頑張ろうという気持ちになって前向きになれます。話し合い活動で間違ったことを言っても、友達の話聞きながら修正できます。「失敗しても大丈夫なんだ」という気持ちが子どもの成長につながり、ポジティブな考え方になっていくのではないのでしょうか。

「失敗は成長の糧」という言葉があります。失敗とはシンプルに「うまくいかない方法を見つけること」であり「成功するための経験」なのです。失敗経験は、自分の幅を広げて、人間として「成長の糧」となります。学校はそうでなくてはいけないと思います。ですから、失敗を責めてはいけません。元プロ野球監督の野村克也さんは「三振したことだけを取り上げて責め立てたら、選手は三振だけはしないようになってしまう。」と言っています。失敗したことだけを取り立てて責めたら、次は失敗だけはしないようになります。でも、それでは次のステップには進めません。私は子どもたちが失敗を許容し、皆が認めあえる学校になってほしいと願っています。そしてそれが子どもたちの健やかな成長につながると信じています。